

仙台経済界

2011
9-10 月号

スイカを食べて元気に

青果育種研究会が仮設住宅で1000個振る舞う

全国の卸売市場32社と種苗会社32社でつくる青果育種研究会（会長、宮本修（株）東京青果専務取締役）が7月22日、仙台中央卸売市場、

は「これまで皆さんに育ててもらった恩返しに来ました。スイカを食べ、て元気になってください」と呼びかけた。

（株）宮果と共同で仙台市内の仮設住宅2カ所を訪れ、暑さを和らげてもらおうと旬のスイカを振る舞った。

用意したスイカは、奈良県の種苗会社5社から提供を受けた大玉で、数は2玉入りタンボール50ケースの計1000個。

仙台市若林区東六郷地区約150世帯が住んでいる若林日辺グラウンド（ニッペリア）仮設住宅では、大勢の人が列をつくり、宮果の遠藤哲夫社長（写真内）



用意したスイカは、奈良県の種苗会社5社から提供を受けた大玉で、数は2玉入りタンボール50ケースの計1000個。スイカ用カッターを使い、その場で切り分けた。集まった人たちは、笑顔で大きなスイカを口にしていた。